

2014年 総合生活改善
第3回中央生活闘争委員会
＜確認事項＞

2014年3月8日
自動車総連

☆2014年総合生活改善の取り組みにおいては、1000単組余りが実質生活の維持・向上、生産性向上への成果配分、賃金実態を踏まえた格差・体系の是正を目指して賃金改善に取り組んでいる。また、一時金・労働時間についても、組合員の期待に応え得る成果を引き出すため精力的に取り組んでいる。こうした中で3月12日の集中回答日に向けて、拡大戦術会議登録組合を中心に最終盤の追い上げを図っており、今次総合生活改善は正に正念場を迎えている。

☆本日までの交渉で、各単組は、「ここ数年、企業体質の着実な転換を図ってこられたのは、職場の血の滲むような努力によって労働の質を高めてきたからだ」と主張した上で、「企業競争力の礎である人への投資の重要性」は勿論のこと、「格差の実態や賃金制度が抱える課題に基づく格差・体系是正の必要性」、「業種や企業規模の壁を乗り越えた全体としての水準“底上げ”の必要性」など、本年の要求に込めた思いや組合員の期待、そして日本経済の牽引役たる自動車産業労使が今果たすべき役割を精一杯主張し、交渉を追い上げてきた。

一方、経営側は、これまでの組合員の協力や頑張りに感謝の意を示し、日本経済の好循環にむけた努力は労使共通の思いとしながらも、賃金が持つコストという一面が中長期にわたって経営基盤に大きな影響を与えることや、世界経済の先行きの不透明さ、競争力低下への懸念を理由に、我々の要求に対しては、ここにきてもお慎重かつ厳しい姿勢を崩していない。

☆我々は、自動車産業が今後も健全に発展していくためには、国内事業基盤の維持・強化が不可欠であり、「その競争力の源泉たる人への投資を強く求めていく」さらに、日本経済を長期化するデフレから脱却させ、経済成長と所得向上を同時に推し進めていくためにも、「全員で、月例賃金で、底上げを図る事が重要である」との認識を共有してきた。その上で、各単組が職場と徹底的に話し合い、「確固たる根拠」と「強いこだわり」を込めた自らの要求を構築したのであり、経営側は、コスト抑制論に終始することなく、この職場の総意たる“信念の要求”を真正面から受け止め、誠意をもって応えるべきである。

☆我々は、今一度、要求に込めた思い、組合員とその家族の強い期待、日本の基幹産業労使に課せられた役割、労働組合の社会的責務を再認識し、本日、第3回中央生活闘争委員会において、自動車総連として最終盤に向けた方針を以下の通り確認し、拡大戦術会議登録組合を中心に、要求実現に向けて、最後まで粘り強く交渉を追い上げていく。

1. 個別要求項目

<賃金>

- 全ての単組は、賃金カーブ維持分の確保に徹底的にこだわり、その原資を100%確保する。
- 賃金改善分については、自らが掲げた要求に沿った回答にこだわり、最大限押し込む。
- 個別賃金については、平均賃金との同時決着を図る。
- 企業内最低賃金協定については、同じ企業に働く仲間である非正規労働者も含めた賃金下支えの観点に加え、広く自動車産業で働く者の賃金下支えにつながる特定（産業別）最低賃金への波及も視野に、協定の締結や締結対象者の拡大、締結水準の向上に向け全力で取り組む。

<一時金>

- 年間一時金については、組合員とその家族の生活を守るために、また、組合員のこの一年間の努力・成果に報い、且つ更なる意欲・活力に繋げていくためにも、賃金との「同時決着」「年間協定」を堅持するとともに、要求水準への組合員の強い思いを踏まえ、「満額獲得」にむけ最後まで押し込む。

<総実労働時間>

- START12の方針に沿った各単組の3ヵ年計画に基づき、総実労働時間短縮に向けた着実な前進を図る。

<非正規労働者に関する取り組み>

- 個々の要求に込めた思いの実現にむけて、最後まで全力で取り組む。

2. 回答引き出し

- 各単組は、3月12日（水）から3月21日（金）の間で集中的に、各要求項目について同時回答を引き出し、3月末決着に向け最大限取り組む。
- ・拡大戦術会議登録組合は、3月12日（水）午前中に、賃金・年間一時金などの同時回答を引き出し決着する。
- ・回答指定日の重みを踏まえ、車体・部品部門は3月末決着、販売部門は早期決着に向け取り組み、総連全体では遅くとも4月末までの決着を図るべく最大限努力する。

3. 第4回中央生活闘争委員会を3月25日（火）に開催する。

以上